

27PB-am123

薬用植物の種子発芽に関する研究—キバナオウギ, ダイオウ, モッコウ, ホッカイトウキ, トウキの種子発芽に及ぼす温度の影響

○熊谷 健夫¹, 瀧野 裕之¹, 菱田 敦之¹, 川原 信夫¹ (医薬基盤研・薬植セ)

【目的】国内で栽培可能な薬用植物でかつ需要が高い薬用植物を中心に、種子の発芽条件や休眠性等の情報整備を目的として、薬用植物資源研究センターで採取した来歴や生産年度が明らかな種子を材料に用い、薬用植物種子の発芽試験の標準化に向けた試験を行った。この結果、一部の植物で至適条件が得られたので報告する。

【方法】キバナオウギ、ダイオウ、モッコウ、ホッカイトウキ、トウキ各種子の発芽に及ぼす温度の影響を検討した。各植物の種子は、試験年の前年産栽培種子を用いた。発芽床に50粒の種子を置床し、15, 20, 25及び30℃の4段階の一定温度に設定したインキュベーター内で各温度条件ともに3反復で試験を行った。照明条件は、12時間の明暗サイクルを用いた。

【結果および考察】発芽試験の結果、キバナオウギの発芽は15~20℃で発根率、出葉率が高く、15℃で発根率95%、出葉率60%を示した。ダイオウの発芽は15~20℃の発根、出葉率が高く、15℃で85%、20℃で91%の発根率を示した。出葉率は温度が上がるにつれて低下した。モッコウの発芽は25℃の発根率、出葉率が高く、発根率は71%、出葉率は69%を示した。15℃の発根率、出葉率は低く推移した。ホッカイトウキは15~20℃の発芽率が高く、15℃で発根率48%、出葉率28%、20℃で発根率33%、出葉率21%を示した。トウキは15~20℃の発芽率が高く、15℃で発根率23%、出葉率11%、20℃で発根率20%、出葉率11%を示した。以上の結果より、各植物の最適な発芽温度は、キバナオウギ15~20℃、ダイオウ15~20℃、モッコウ20~25℃、ホッカイトウキ15~20℃、トウキ15~20℃と考えられ、今後、上記重要薬用植物の効率的保存・増殖法の検討に資するものと期待される。